

戦 傷 病 者 史 料 館

しょうけい館 通信

移 転 から 1 年
活 動 紹 介

Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

T O P I C S

P1 令和6年度 秋の企画展／冬の企画展

P3 次世代の語り部講話活動

P6 学芸員コラム「戦傷病者と妻が短歌に綴った思い」

Vol. 002

November 2024

TOPICS 1 企画展 紹介

2023年10月に移転開館してから約1年間の活動を紹介します。 しょうけい館と水木しげる先生

漫画家・妖怪研究者として著名な水木しげる(本名:武良茂)先生は、先の大戦中に南方ラバウルで爆撃により左腕を失った戦傷病者でもありました。しょうけい館では、先生の作品や映像をもとに、先生が体験した戦中・戦後の労苦を伝える企画展を開催しています。

秋の企画展／冬の企画展

秋の企画展 **青年 武良 茂(水木しげる)と戦争**

冬の企画展 **漫画家 水木しげる(武良 茂)と戦争**

2023年10月の移転の時には、水木しげるの総合展を企画展示室で開催しました。そして今年の秋と冬の企画展では、水木しげる先生の戦争体験を、スケッチや漫画の一コマを通して紹介します。

秋の企画展では、徴兵から入営、出征、戦地での受傷病

までを、冬の企画展では、受傷病から復員、戦後の生活、そして戦争体験を漫画に描くまでを展示します。

両企画展示では、証言映像を同時上映します。また、水木しげる先生の漫画や体験記は、図書室にも配架していますので、じっくり読んでいただきたいと思います。

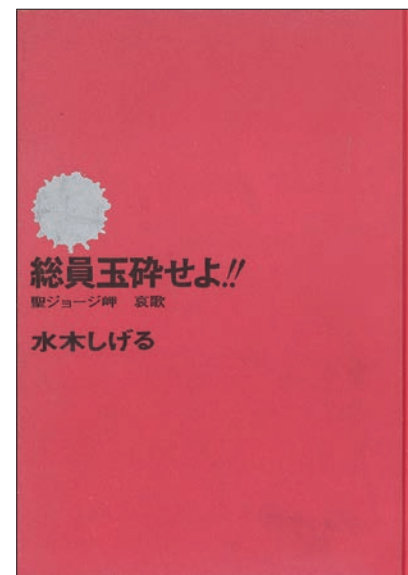
時 間	10:00～17:30(入館は17:00まで)
会 場	しょうけい館 2階企画展示室
秋の企画展	令和6年9月3日(火)より 令和6年12月1日(日)まで
冬の企画展	令和6年12月3日(火)より 令和7年3月2日(日)まで



展示の様子



『娘に語るお父さんの戦記』



『総員玉碎せよ!!』

夏の企画展 会期終了

海軍 青年たちの戦争 — 5名の足跡をたどって—

夏の企画展では、海軍に志願し、戦傷病者となった5名の青年の半生を寄贈資料とともに紹介しました。

勇ましい軍人の姿、海原や大空に憧れを抱き海軍を志願した青年たちは、入団後の訓練を経て戦場へ赴いていきました。そこでどのような体験をし、何を思い、終戦を迎えることになったのか、5名の証言や手記から本人の体験をたどりました。

今回紹介した戦傷病者のご家族もお越しになり、若き日のお父様の経験をご覧いただきました。寄贈資料というモノだけではなく、戦傷病者の体験や思いも伝えていくことに、これからも努めていきたいと思います。



海軍の青年たち(大竹海兵団)

テーマ別展示

作品に込めた労苦 (前期/後期)

3階常設展示室の見学を終えると、テーマ別展示のコーナーに出ます。ここでは、寄贈資料を、テーマを設けて紹介し、定期的に展示替えをおこなっています。

「作品に込めた労苦」は前期・後期の展示として企画しています。7月2日(火)から9月29日(日)までは、戦傷病者やその妻が折々に詠んだ短歌を、月ごとに入れ替えをおこないながら紹介しました。また、海軍陸戦隊に配属され、左腕を負傷された方の戦争体験画集と、この画集にナレーションを付けた動画を紹介しました。

10月2日(火)から12月27日(金)までは、海洋船舶画家の上田毅八郎氏の絵画と軍事郵便葉書を展示しています。軍事郵便葉書は出征した兵士が、戦地や病院から、家族や戦友に宛てて自分の安否などを知らせるために出していたものです。今回は、寄贈資料の中から、家族に宛てた葉書と、軍隊生活を描いた葉書を展示しています。



戦争体験を描いた画集(前期 会期終了)



戦地から家族に宛てたはがき(後期 開催中)

TOPICS 2 語り部 講話

次世代の語り部講話活動では、移転後に定期講話会・団体見学・派遣講話の3本の柱で語り部講話活動を進めています。2024年の講話活動では、毎月第2日曜日に開催の定期講話会や夏休み期間の「夏の集中講話会」に加え、都内や近県の高校・大学や地方自治体などの団体に向けて講話をおこなってきました。定期講話会では講話に加えて、テーマに関連するゲストを招いたり関連する収蔵品展示などもおこない、多くの方にわかりやすく興味深い講話会となるよう工夫しています。

夏休みには、特別企画として集中講話会をおこないました。戦争に関心がある方や、平和学習の為に参加した学生など、4日間で120名以上の方が参加された催しとなりました。今後も多くの方に語り部講話を聴いていただけるように活動していきます。



12月の講話会の様子



戦盲歌を歌唱する神戸さん

2023年

12月の定期講話会

漫画家・日暮えむさんをお招きして開催しました。日暮さんは、昭和を舞台にした漫画「新ひぐらし日記」を描かれており、その中に当館の語り部が主人公として登場する話があります。漫画に登場する語り部の講話に加え、日暮さんと語り部による対談を行い、漫画で戦争を題材にした理由や戦争の記憶を伝える意義について話をしました。

2024年

7月の定期講話会

歌人の佐佐木頼綱さんと、歌手の神戸薫子さんをお招きして開催しました。お二人は、戦争で失明した元兵士が詠んだ短歌に曲をつけた「戦盲歌」を今に伝える活動をおこなっています。戦盲歌の解説を佐佐木さんにしていただき、神戸さんには歌をご披露いただきました。

語り部の講話では、両眼失明となった戦傷病者の体験を話しました。戦盲歌の説明と講話により、盲目となった兵士のそのはかることのできない心中を伝え、平和の大切さや命の尊さを呼びかけました。

2024年

特別企画 夏の集中講話会

8月は夏の特別企画として、11日、12日、14日、15日の4日間連続で講話会を実施しました。開催日毎に語り部は入れ替わり、1日2名、合計8名の語り部が講話をおこないました。講話会では語り部による講話に加え、日本が戦争へ至った歴史的出来事を時系列でまとめた映像を上映し、当時の時代的背景を踏まえて戦傷病者の労苦をより深く学ぶことができるイベントとしました。



夏の集中講話会の様子

団体向け

団体見学

館内を見学する団体に向けた講話をおこなっています。予約の際に、語り部講話コースを選ぶことで、講話を聴くことができます。関連する映像や学芸員による展示ガイダンスと組み合わせていただくことで、戦傷病者の体験や当時の時代背景等を深く理解することができます。



団体見学の様子

団体向け

派遣講話

館外へ語り部を派遣する、派遣講話もおこなっています。平和学習やイベントでお話をします。館に足を運ぶことが難しい場合や、イベント参加者の人数が多い場合にお申込みいただいております。



派遣講話の様子

語り部の講話は、戦傷病者とそのご家族が体験した戦中・戦後の困難や苦しみについて、体験者の思いを伝えるものです。内容は、しょうい館の資料をもとに当時の社会状況等を交えながら、戦傷病者の体験を分かりやすく知ることができるようまとめたものです。語り部は、当館で3年間の研修を修了した戦後生まれの男女、合わせて21名です。戦後79年が経過し、戦傷病者の平均年齢は100歳近くとなっており、生の声を聞くことが難しくなっています。その思いを引き継いだ語り部による戦傷病者の体験を聞いていただき、多くの方に平和の大切さを伝えています。

団体に向けた講話活動を聞くためには、申し込みが必要となります。詳細はホームページをご確認ください。

TOPICS 3 レポート

合同巡回展 会期終了

戦傷病者の労苦を伝える大分展

車いすと義肢が支えた希望の一步

協力：社会福祉法人 太陽の家

毎年、昭和館と平和祈念展示資料館（帰還者たちの記憶ミュージアム）とともに巡回展を開催しています。今年は、大分県で開催しました（令和6年6月19日（水）～30日（日）会場：大分県立美術館）。

本展では、「パラリンピックと戦傷病者」と「戦傷病者と義肢」をテーマに、戦争でけがや病気になった戦傷病者の体験を紹介しました。大分県は「日本パラリンピックの父」とも呼ばれ、東京パラリンピックの開催をはじめ、日本の

パラスポーツの発展に尽力した医師、中村裕氏の活動の中心地でした。氏の足跡をたどりながら、戦傷病者とパラスポーツの関係やその後の発展について、1964年東京パラリンピック大会の資料などを踏まえて紹介をしました。

会期中は、梅雨らしいあいにくのお天気でしたが、多くの方にご来場いただきました。



大分県立美術館

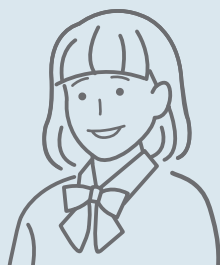


パラリンピックと戦傷病者

来館者の感想

戦争やそれに関連した事柄について知るととてもいい機会になりました。合同の展覧会だと足を運びやすくてとてもいいなと思いました。

10代女性



義肢、義足の実物を見たのは初めてで、例え形をおぎなっても元の暮らしには戻れないという実感がすごかったです。よい経験になりました。

30代女性



中村裕氏や太陽の家の事は地元でも有名なので知っていたが、その歴史や背景、パラリンピックとの関係など、さらに深く知ることができた。

60代男性



TOPICS 4 コラム

戦傷病者とその妻が、 短歌に詠んだ思い

日本傷痍軍人会の機関紙『日傷月刊』には、「日傷歌壇」という短歌の投稿欄があります。

一般的な新聞にも短歌や俳句欄があり、四季の歌、時事の歌が多く取り上げられています。「日傷歌壇」の選者はおそらく機関紙の編集担当者と思われ、選考の視点は、たとえ下手でも、折々の気持ちがよく伝わるもの、戦傷病者とその妻ならではの歌を選ぶ傾向があるようです。自身の戦争体験を詠んだもの戦地で亡くなった戦友を想ったもの、戦地で交流のあった現地の人や捕虜を思い出すもの、自身の傷病を詠んだもの、妻への感謝の気持ち、夫を労わる妻の心情、内地の空襲や原爆の被災者に想いを寄せたもの、平和への願いなどが込められた歌が多く寄せられています。

また、傷痍軍人会らしさが垣間見える歌として、毎年開かれる「全国大会」の参加を詠んだ歌が大会の開催前後に多く登場します。大会で仲間に会える楽しみを詠んだもの、当事者だから分かる傷病の苦労と互いを労わるもの、かつての戦地で別れ大会で戦友と再会できた喜びを詠んだもの、雨が降った大会の地に降り立った時、この雨は戦没者の涙なのだと詠んだ歌、傷病のため大会に出席できず残念な気持ちを詠んだもの、大会に行くためにシャツを新調した歌など、年に一度の「全国大会」がいかに大事な集いなのかをこれらの歌を通して知ることができます。

このほかにも、日傷歌壇が縁で交流が生まれたというものや、詠み手に思いを寄せるもの、常連の投稿者からの歌がなかった時にその人の健康を気遣う歌、日傷歌壇を見る時の楽しみについても詠まれており、日傷月刊は傷痍軍人会の活動報告や恩給などの固い情報を会員に伝えるだけでなく、日傷歌壇を通して文化的憩いを届けていた側面もあったのだと感ずることが出来ます。

『日傷月刊』は図書室に配架しており、情報検索端末でも閲覧することができます。また、移転前の施設では、これらの短歌を春と夏の企画展以外の時期に展示していましたが、移転後は、テーマ別展示「作品に込めた労苦」で歌を替えながら展示することにしました。短歌を通して、戦傷病者の労苦を来館者に知っていただきたいと思っています。

見も知らぬ我に便りをくるる人
歌が縁なり日傷月刊

投脚で写る写真も気兼ねなく
傷痍の総会何時も楽しき

義足とり湯殿へ向ふ友に
肩借したる我も亦腰くだけ

土工にも男にまじり一輪車
押したる日あり雪にもめげず

戦場に朽ちざりし身を感謝しつ
いま盲用の時計まさぐる

今後のイベントスケジュール

9/3 火 ▶ 12/1 日

秋の企画展「青年 武良茂(水木しげる)と戦争」

10/1 火 ▶ 12/27 金

テーマ別展示「作品に込めた労苦(後期)」

11/10 日

語り部定期講話会(11月)

12/3 火 ▶ 3/2 日

冬の企画展「漫画家 水木しげる(武良茂)と戦争」

12/8 日

語り部定期講話会(12月)

3/4 火 ▶ 6/1 日

春の企画展「綴られた思い(仮)」

戦傷病者・ご家族へのお知らせ

資料寄贈のお願い

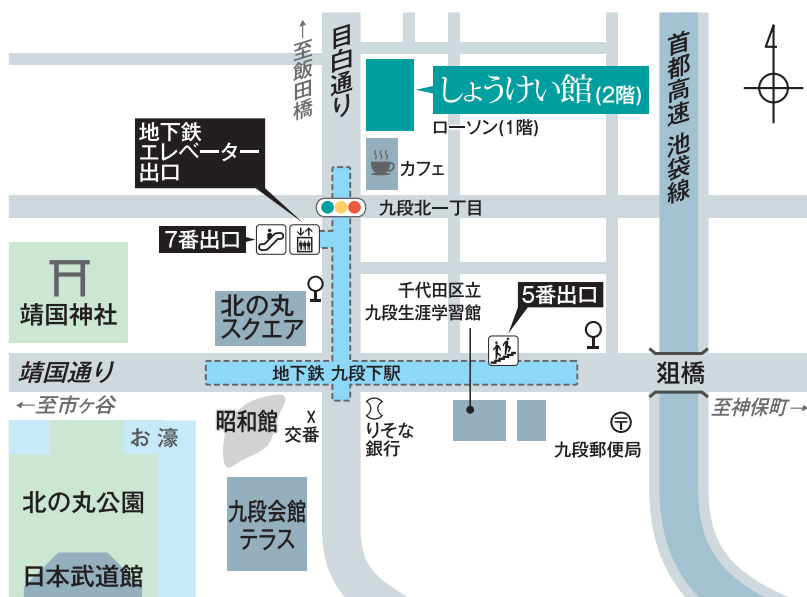
戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様やご家族に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡を待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦傷病者とそのご家族の戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料として活用されます。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族で撮影にご協力頂ける方は、ぜひ当館までお知らせ下さい。

ご来館のみなさまへ



地下鉄を利用の場合

- 東京メトロ
九段下駅(東西線・半蔵門線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- 都営地下鉄
九段下駅(新宿線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

バスを利用の場合

- 都営バス
九段下(飯64系統)より徒歩4分
- 千代田コミュニティバス
千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。

